

情報の倫理前期末レポートについて

以下から任意の1つを選択し、必要事項を満たした状態でレポートを作成し提出すること。注意点が多いため、本文書を熟読した上で取り組むこと。注意点を満たさない場合、単位取得できないことがある。特に引用文献、参考文献の記述方法に間違いが多いため、留意すること。

提出締め切りは、後期試験日程における授業最終日(1月18日)とする。締め切り前に提出しても良い。**提出は担当教員に直接手渡し**すること。メール、郵送、教務課などへの提出は認められない。

欠席が授業回数の1/3回を超えている場合、レポートを受領しても採点は行わない。

1. 情報爆発によりキュレーションメディアや、オウンドメディアなどのこれまでの散乱していた情報をまとめて提供するメディアが登場、普及をしてきたが、多くの問題を抱えていた、指摘されたため、閉鎖に追い込まれる、別体制で再出発を行うなどの対応が行われている。なぜこれらのメディアが登場してきたのか、また、どういった点が問題視されたのか事例を挙げて考察せよ。
 2. 情報の即時入手性が向上したことにより、ある事項に関する説明や解答は容易に入手が可能になった。これにより、利便性が向上した部分も多く存在するが、一方で思考力の低下などを問題視する意見も存在する。瞬時に情報が入手できることの利便性とこれによって生じる問題について考察し、改善策について論ぜよ。
 3. スマートフォンの普及に伴い、低年齢層にも普及を伸ばしている。既存の携帯電話と異なり、容易なコミュニケーションツールとして機能することも多いため、知りうる低年齢層の文化とは異質なものを構成していることが想像できる。低年齢層がスマートフォンなどの機器を所持、利用することについて自身の立場ではどう考えるか明記した上で、現状の問題点を挙げ、どのような解決が望ましいと思われるか考察せよ。
- 1ページ目の上部に選択した項目、学科、学年、学籍番号、氏名を記述すること。表紙は不要である
 - 作成はワープロソフトを使用した上で、A4用紙に1行40文字、45行で記述しなさい。手書きは不可とする
 - 文章末尾は、「だ」、「である」などの常体で記述すること
 - 字数は2,500字以上とする。また図表は字数に含めないものとする
 - ホッチキスで左上1カ所を留めて提出すること。クリップなどは認められない
 - ネットからの引用、参考文献からの引用は認められるが、必ずレポートの最終ページ末尾に参考文献・

引用文献について記述すること（各ページの下部には記述しないこと。脚注のみ記述を認める）。本文中でも引用しているところは、引用していることが明確に分かるように記述すること。明確に記述されていない場合減点の対象になり、場合によって不可となるため、注意すること

- 授業の資料を引用することは認めるが、これも引用文献と同様の扱いとする
- 参考文献・引用文献が 1つも無いのはレポートとしてあり得ないため、不可とする
- 参考文献・引用文献の記述方法はさまざまな記法があるが、本レポートにおいては以下に掲載の方法のみとし、これ以外の記述方法は不可とする

参考文献、引用文献の末尾記述方法

- 単行書の場合
著者名『本の題名』,出版社,発行年
- 単行書記載の記事を引用する場合
著者名『記事名』（編者名『単行書名』,出版社,発行年,*頁以下)
- インターネット（インターネットの場合、該当のページタイトルと URL を記載のこと。大元のサイトタイトルや URL では参考文献の記述にならない。著者名が明確で無い場合は不明とすること）
著者名『ページのタイトル』,URL,アクセス年日（時間は不要）
- 授業資料
関口和真『情報の倫理 第〇回資料』

引用する場合

〇〇〇によれば、「〇〇〇は〇〇〇ということ」とされているが、

〇〇〇は「xxxx は xxxxx と考えられる」と定義しているが、

などのように引用物の著者名を記述した上で、括弧を利用して引用であることを明らかにすること。敬称などは略して記述する。

仮に引用部分に誤字脱字があった場合も誤字脱字を訂正せずにそのまま引用すること。また末尾に引用文献として参考文献と同様に記述を行うこと。但し、参考文献と引用文献を分けて記述すること。

引用に当たっては、1つの文献について最大3行分までとする（文献に記載されているときの長さは問わない。レポートに引用文として記述したときに最大3行分まで許可する）。

文献に記載されていた内容をそのまま利用するのであれば、それは引用に該当する。